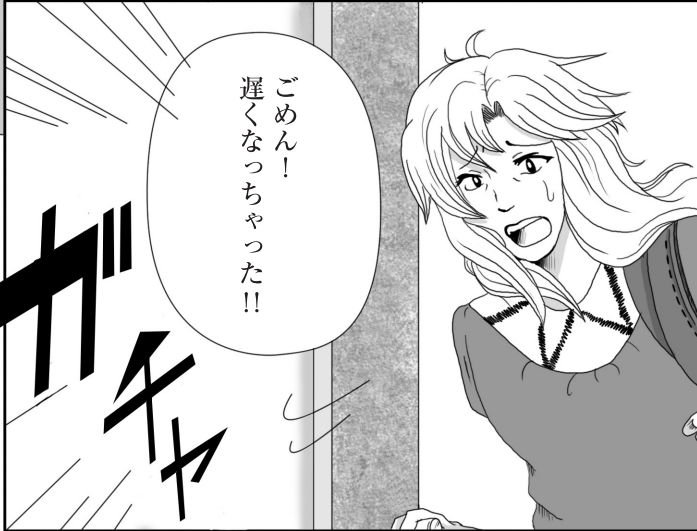


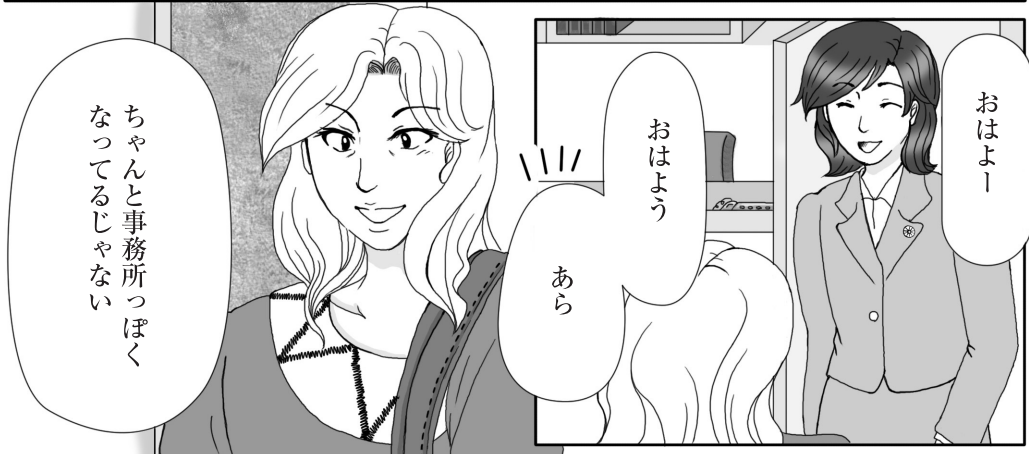


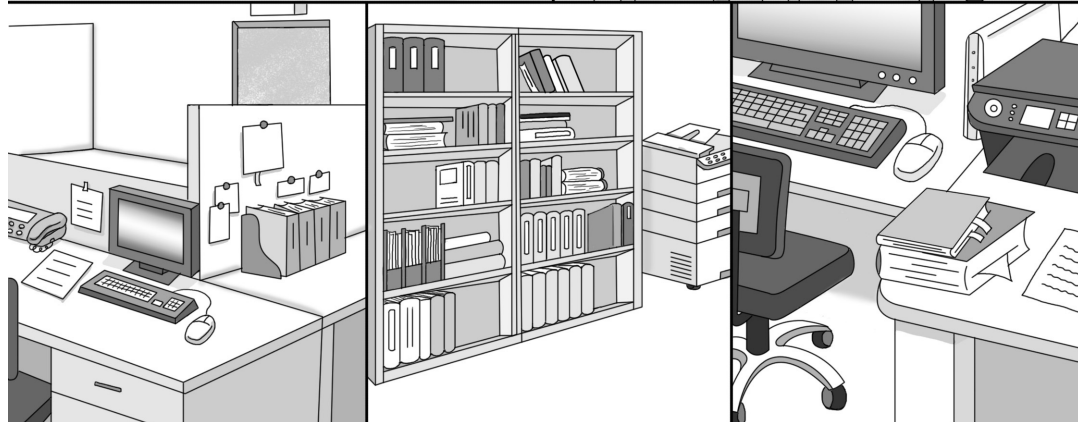
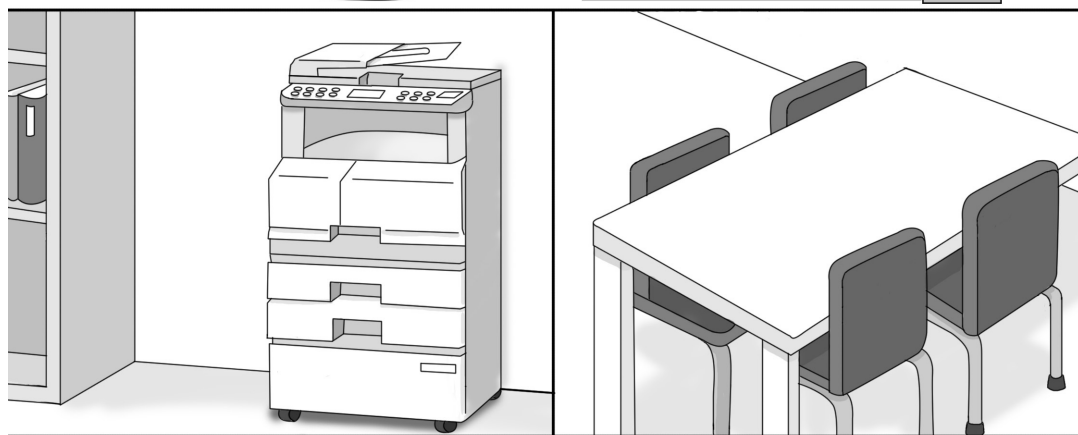
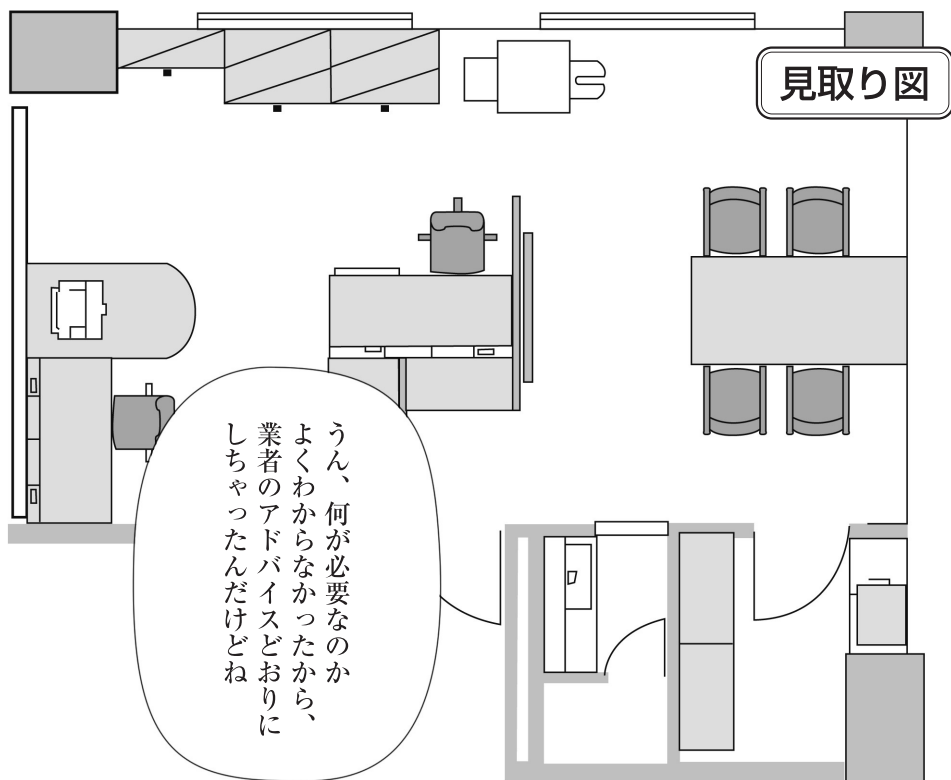
川原崎詠子弁護士は、弁護士登録6年目。地方都市の某事務所の勤務弁護士である。同期の中にはすでに数年前に独立を果たした弁護士も何人かいて、元々独立志向の強かった詠子は焦りを感じていた。地道にこなしてきた個人事件のおかげで、最近やっと独立資金も出来てきたので、ボス弁に相談のうえ、いよいよ独立を決意した。

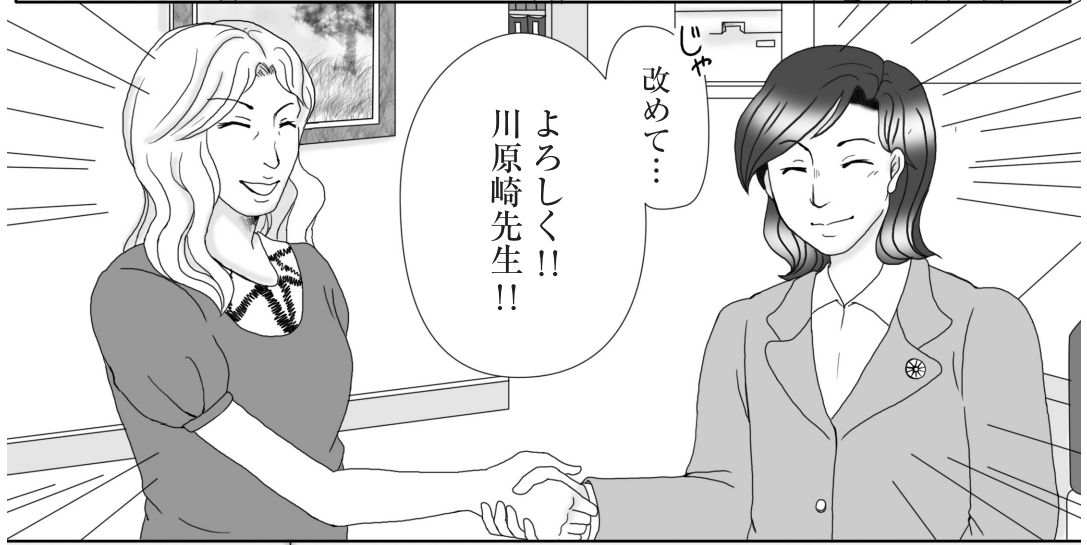
川原崎 詠子



柴 美子
詠子とは幼なじみの美子。週2日だけパートとして事務をやってくれることになった。美子は、もともとIT系企業のOLで、OL時代のパソコンの知識がこれから詠子を大いに助けてくれることになるうとは思ってもみないことであった。







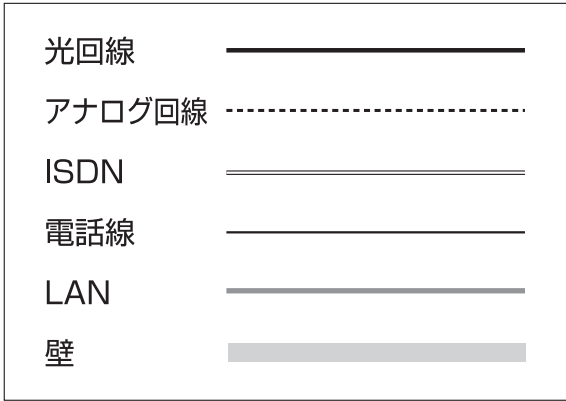
独立開業に必要な最低限のインフラ

詠子先生は念願の独立を果たし、無事、事務所を開設することができました。ITにはうとい詠子先生ですが、事務所を開設するにあたり、どのような準備をしたのでしょうか。ITインフラについては、自力で物品をそろえ、設定まですべてをこなせるとい方もいるでしょうが、一般的には、電話、複合機、パソコン関連など、ネットワーク機器・オフィス機器業者などの専門業者に頼らざるを得ないでしょう。しかし、その場合、最低限、電話回線を何本にするとか、複合機の知識やこのように使いたいなどの要望があったほうが、専門業者と効率的に打合せができますし、設備投資の過不足を避けることもできます。

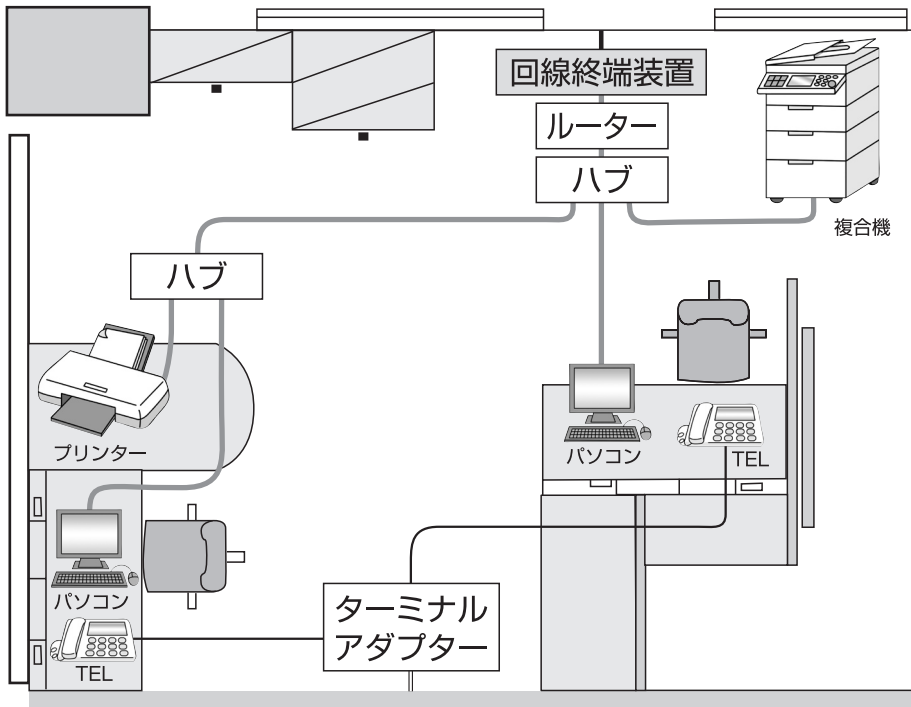
そうすることによって、より満足、納得できる環境を構築することができるよう。

また、事務所に什器備品を入れた後に、電話線やLANケーブルを新たに敷設するのは大変なので、事務所では通常何人で執務するのか、近い将来増員の予定があるのか、なども考慮に入れて、事務所のインフラ

※本書では、配線を以下のように使い分けます。



詠子先生の執務室の見取り図（イメージ）



に、拡張性を持たせておくことも重要です。ここでは事務所のインフラを1. 電話関連 2. インターネット接続 3. 複合機、プリンター 4. パソコン本体、モニター 5. パソコン用のソフトウェア 以上五項目に分け、それぞれにどのような物品が必要か、どのようなことを考慮して物品や数量を検討すべきかを解説します。

1. 電話関連

まず、電話回線種別と回線数を決めましょう。

現在、日本で使える電話回線としては、「ISDN回線」「アナログ回線」「光回線」があります。それぞれの回線の特徴は下表のとおりです。

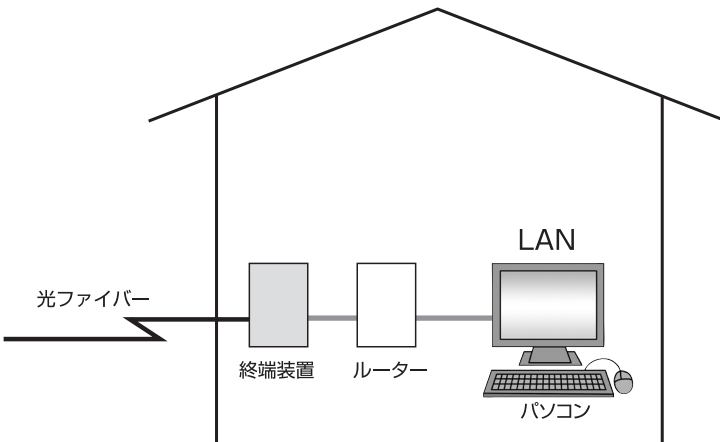
ISDN回線には「INSネット64ライト」、アナログ回線には「加入電話・ライトプラン」という、電話加入権（施設設置負担金）が不要なプランもあります。ただし、月額費用が通常料金

ISDN回線 (INS64)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1本で2回線を利用可能 ・ データ通信には速度が遅い (64K) ・ 別途ターミナルアダプターという機器が必要
アナログ回線	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISDN回線に比べて基本料金が安い ・ 通話と同時にADSL回線として高速データ通信も利用可能 (通話とデータ通信の同時利用も可能) ・ ターミナルアダプターは不要
光回線 (ひかり電話)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通話料金が全国一律 ・ 通話と同時に高速データ通信も利用可能 ・ 光回線用の回線終端装置 (※) が必要 ・ 一般的にIPフォンでは「050」から始まる番号が使われるが、ひかり電話では、「03」「045」などの一般電話と同様の電話番号が利用可能 ・ 1本で2回線を利用可能 (別途オプション契約が必要)

よりも若干割高になります。電話加入権を持っていない場合は、このプランを検討するのもよいでしょう。では、開業時の人数に応じて、各種設置プランを考えていきましょう。

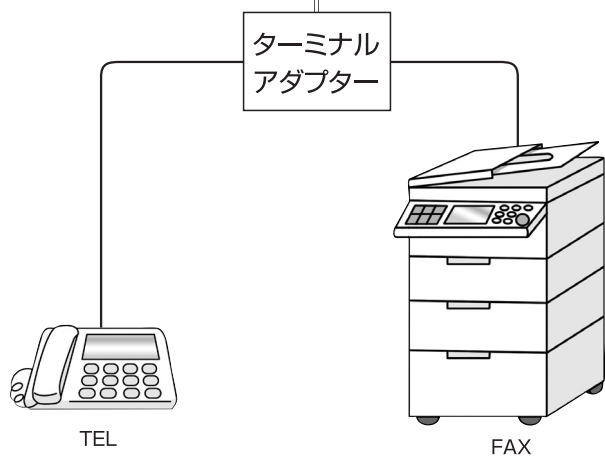
※光回線用の回線終端装置とは？

Bフレッツなど光回線を使ったインターネット接続サービスを利用するとき、宅内に設置する機器のこと。回線業者が設置していくので、通常はユーザーは気にする必要はない。宅内に引き込んだ光ファイバーのケーブルをこの機器に接続する。呼び名どおり、光ファイバーのケーブル終端にはこの機器が必要となる。



※ NTTの光電話では、終端装置とルーターが一体化している。

ISDNを利用した配線



ターミナルアダプター



(1) 一人で開業する場合（弁護士一人）
 (ア) 方法①（ISDN回線を利用）
 事務所で何人が執務するかによって回線数も決まってきます。原則、一人につき一回線と、FAX回線が必要でしょう。弁護士一人だけで開業するといふ方であれば、ISDN回線を一本契約し、一回線を通話用にもう一回線をFAX用にすれば安価にすませることができま

す。ISDN回線を利用するには、「TA（ターミナルアダプター）」（※）という機器が必要です。ターミナルアダプターは、NTTからレンタルし、どのように電話を使いたいかを専門業者に伝え、設定してもらいましょう。ターミナルアダプターの設定方法を知っている、または自分で設定に挑戦してみたいという方は、レンタルせずに家電量販店などで購入していただくことも可能です。なお、ターミナルアダプターについては、「INSメイトV30Slim」という製品が一般的によく使われています。別途「iナンバー」というサービスを契約して、通話用番号とFAX番号を連番で取得することも可能です。電話機は、家庭用の親子電話（親機と無線子機の二台セット）などでじゅうぶんでしょう。

※ターミナルアダプター（TA）とは？

パソコンやモデム、アナログ電話、FAXなど、本来ISDN回線に接続できない通信機器をISDN回線に接続するための機器。

(イ) 方法②（光回線を利用）

NTTの光回線を利用した「ひかり電話」（※）＋「ダブルチャネル」というサービスを利用します。この組み合わせのサービスを利用すれば、ISDN回線同様、光回線一本で二回線分利用することができるので、「通話用に二回線」「通話用とFAX用に一回線ずつ」といった使い方ができます。さらに、光回線なので、インターネット接続のデータ通信用としても併用でき、「通話、FAX、データ通信」の三役を一本でまかなうことができます。一人で始める事務所向けには、非常に効率的だといえるでしょう。「ひかり電話」は基本的にはIP電話（※）なのですが、「050」から始まる電話番号ではなく、「03」「045」など、一般加入電話と同様